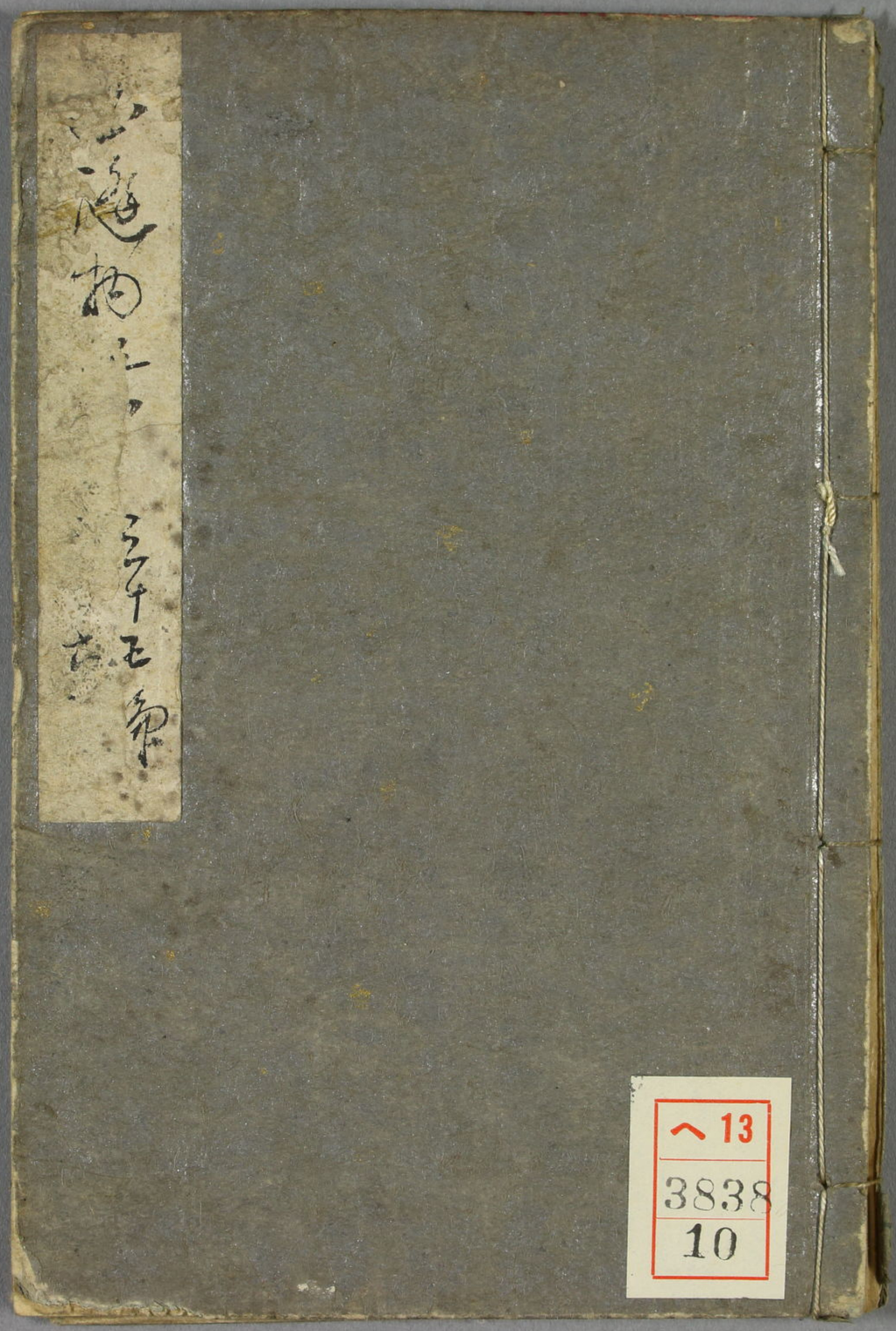

山海物産
享和
へ13
3838
10

白海物語

三十六編

三十六編

白縫

種員著

國貞画

廣幸
壽樟

上冊
光五へん

門へ13
號3838
巻10

白縫
四十五

種員作
國貞繪
三十五編上
廣幸壽梓
志羅
努飛
母迦
賀
多理
弁慶曲玉國盛
三十五編之下

白滝潭
三十六編上
種貞作
國貞画
彫師
三拾六編下

新撰狂歌百鬼語

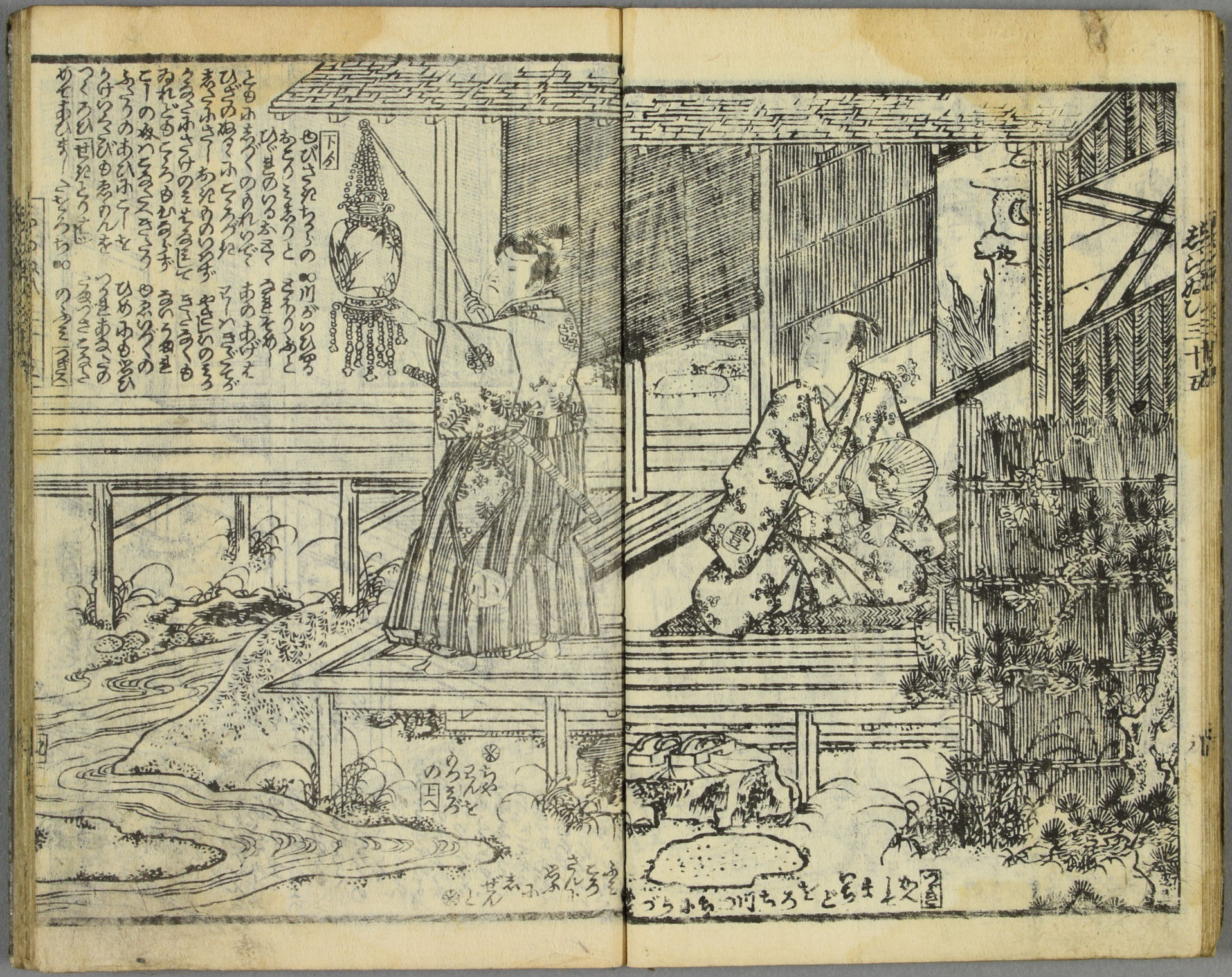
三十六編下

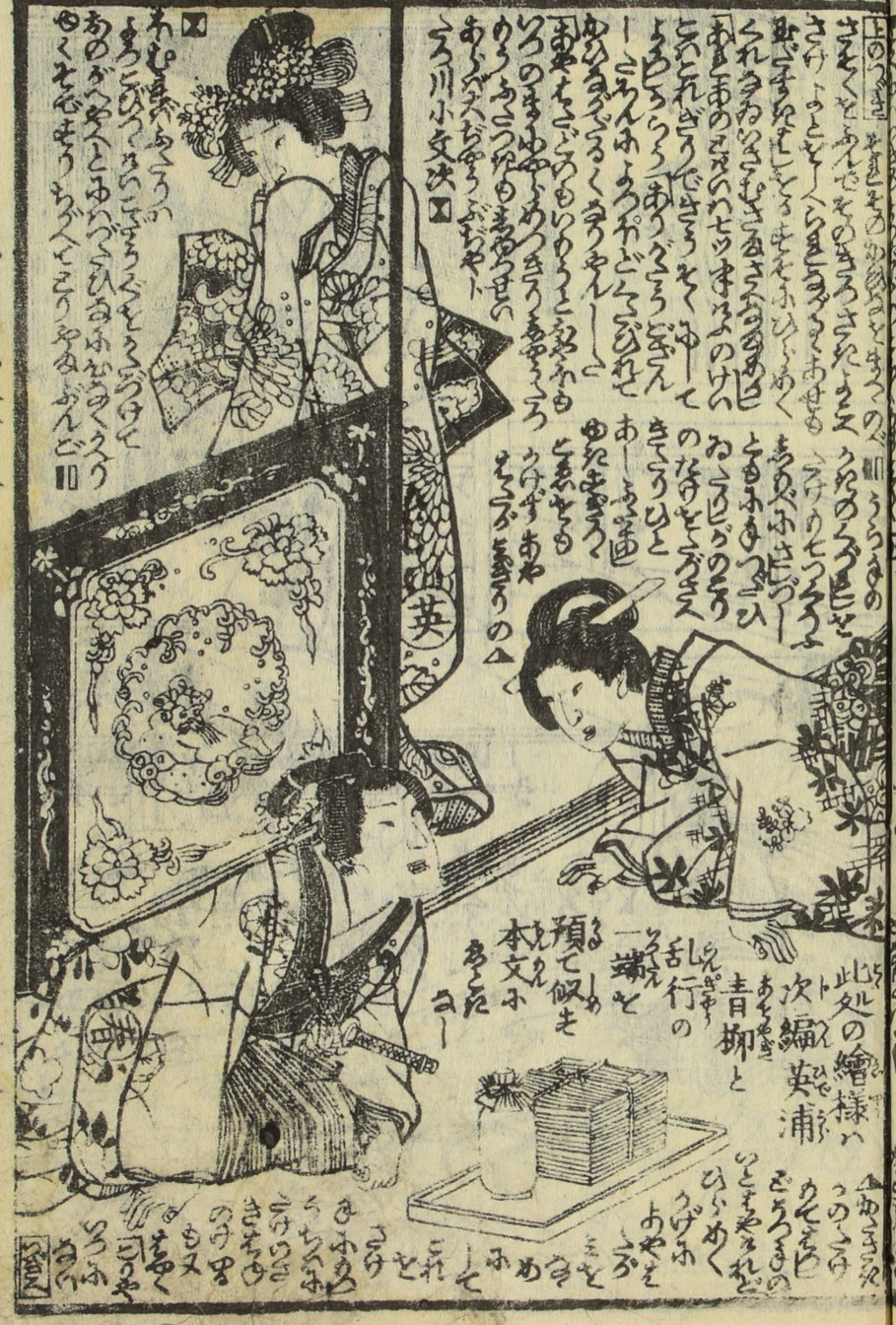
京畫

格套の廣狹區々諸処ゑ上りの有ゞ新板奇異選抜の流行ゆゑ重編の合巻ゑ一齣つゞの長短参差彼此東西と七八分全首尾ゆくゑ侶ゝ本脇白縫代物語春吉ゞ鐘ゞ崎鈴代ゞ芹生里と發端ゝら二ゑ別ゝ東海岐蘇路の両道中振分雙陸ゑ芋代のゝう菊地大友の本街道の外少貳の黒寄阿修羅ゞ阿蘇山或ハ亀谷大蛇川と緯道支路ゑ名所あれゞ不有話下て又話分両頭ゝる又巷の謗尓の文字の剥ゝる如く東西の明らねゞ飛双六を振意ゆゑ拠ゝら佐叡を御籤ゑ代ゞ〻ゞでゝとて白梅の話〻ゞ出てゝ三笠山のゝとを彼地此地綴ゝゞ今度ハ〻〻て珍く読鳥津の六郎ゝ出精ゝて上ゝを急で大日を九餘ゝて戻ゝる大津宿草津の姥の餅ゑ搗趣向乃多多きゝいと愧ゝ

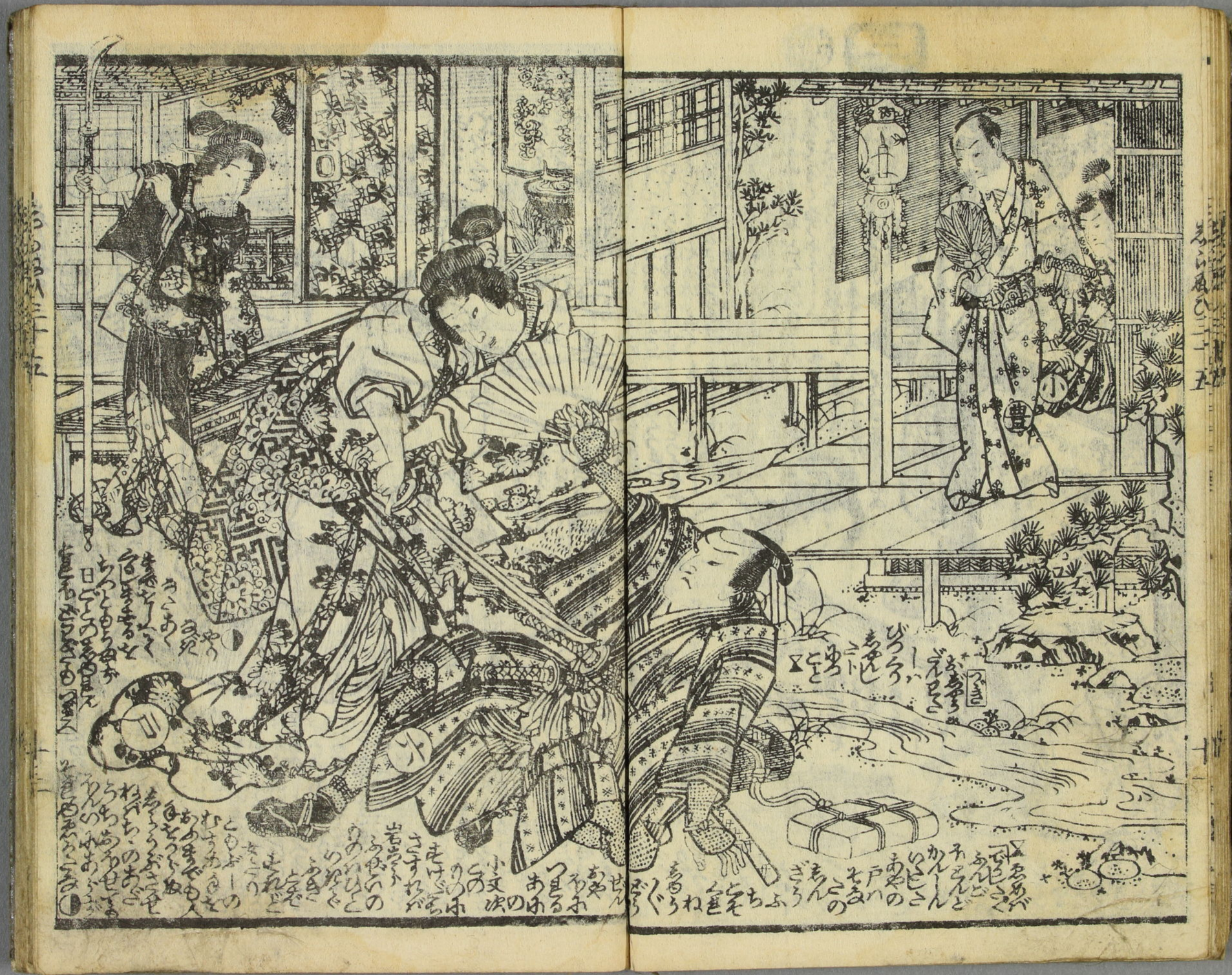
文久二年睦月新刊

柳亭種彦



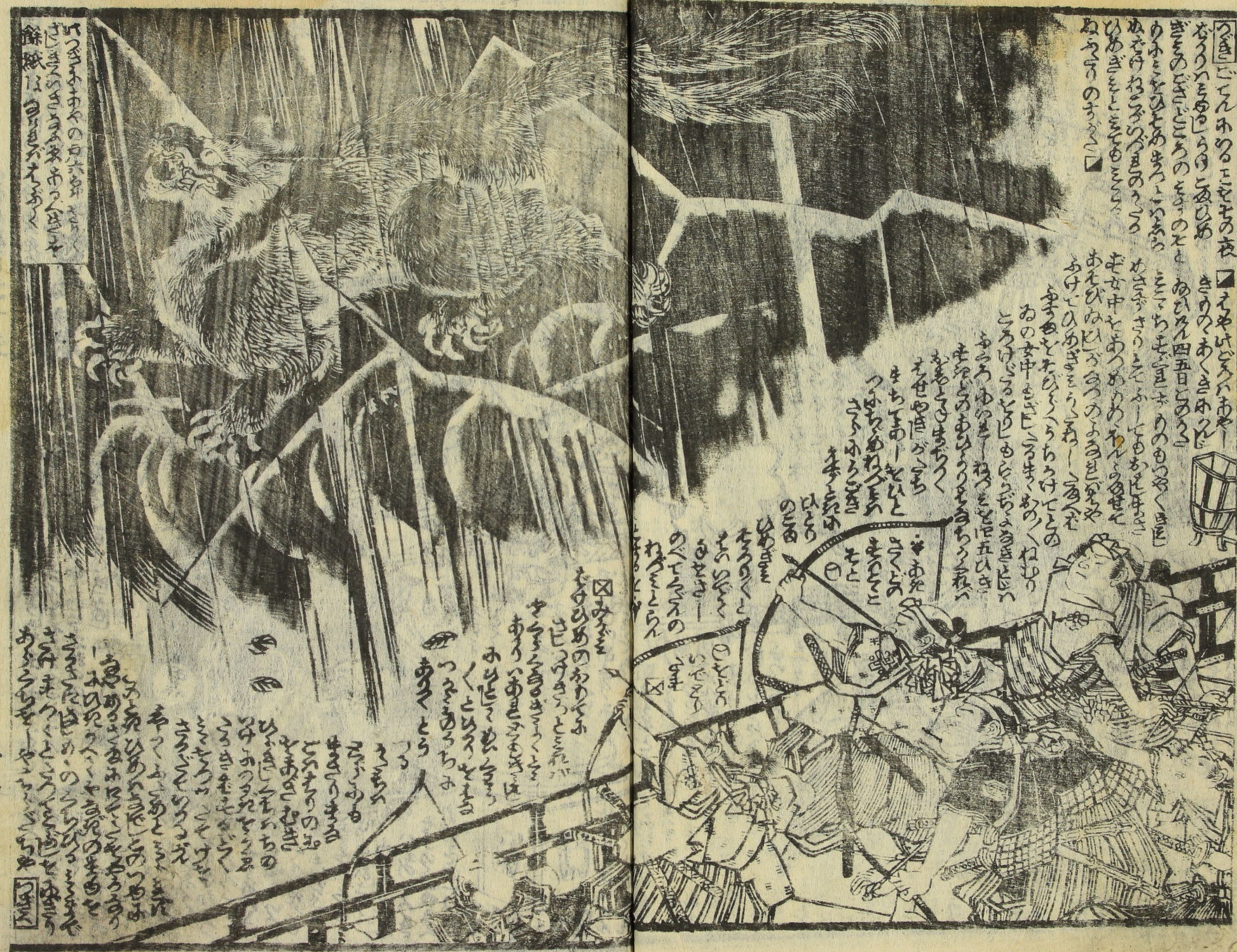


種員遺
柳亭修
案辞
國貞畫

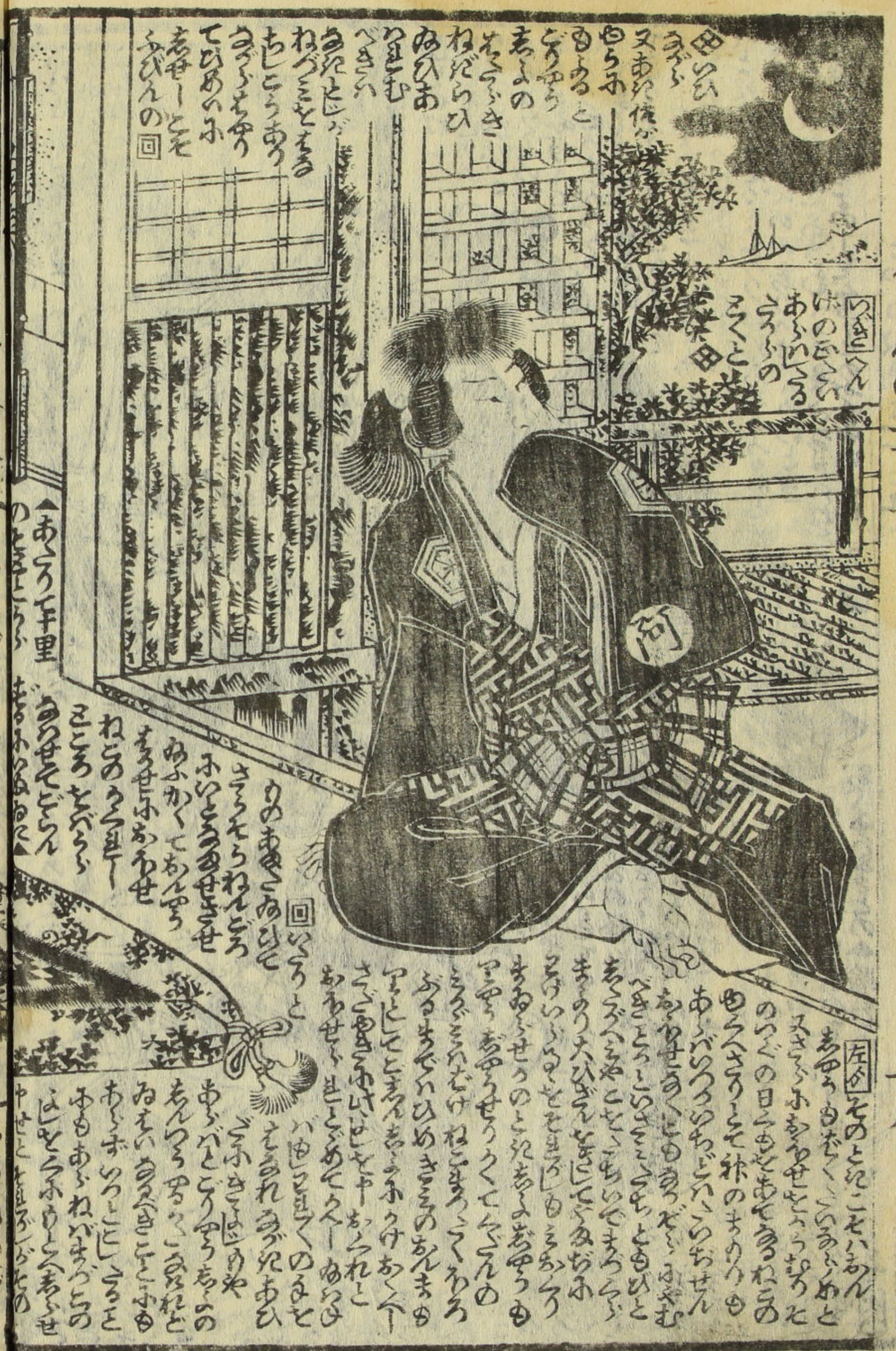


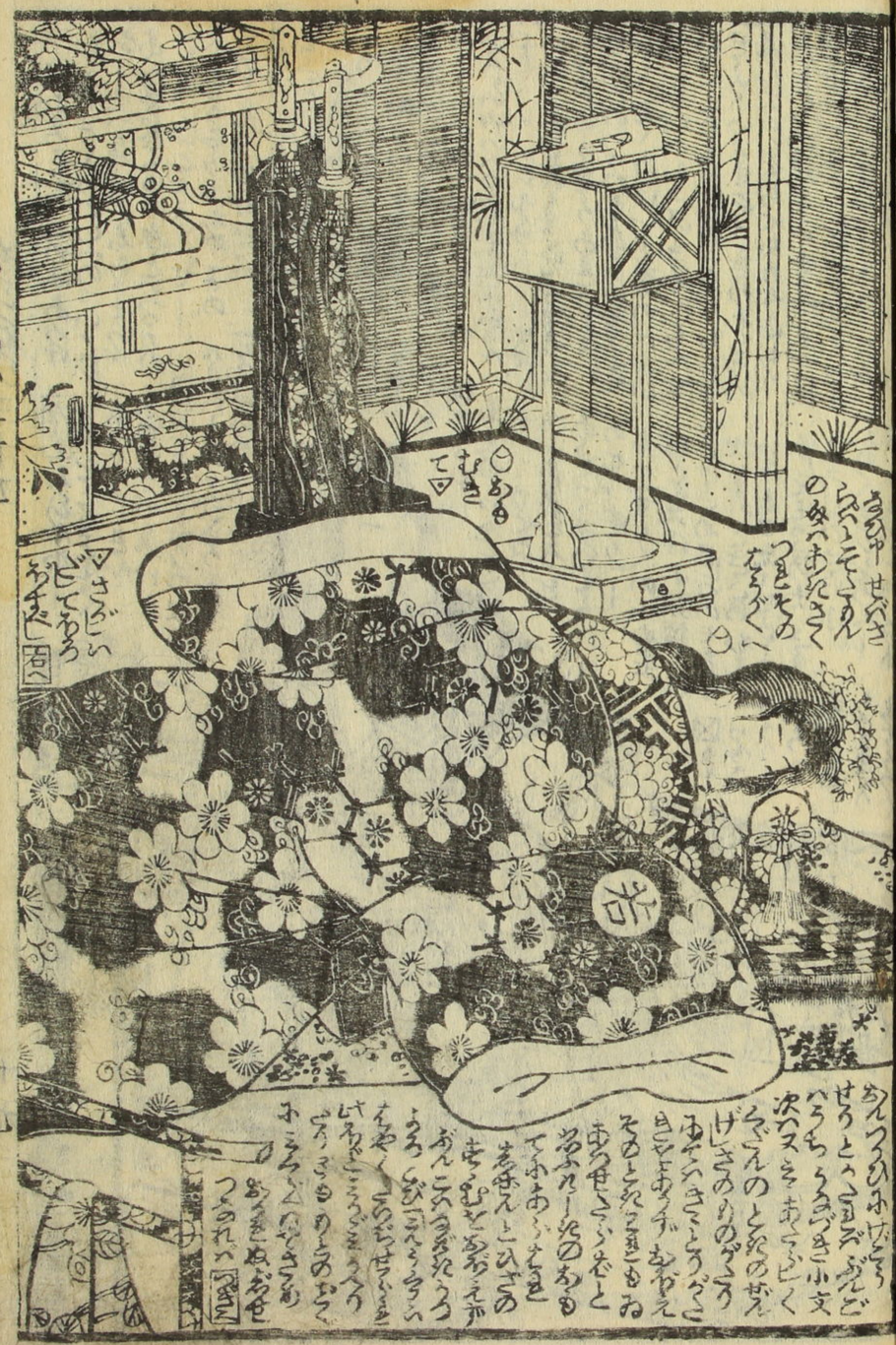
以下四丁のあいだ家が物語ゆえ
妖怪退治の白米かいけの二の
舞なるべし故と省文であるべし

南
秋


つぎ
ごてんわるこをもの夜
なろういとあるひ
ぎをのどぎごころのをすのとも
あわこをひとあまろこいあろ
ぬをけわこぞのづまのうころ
ひめぎをこをそもをろぐ
ねうをりのぞぐこ
えやけどろハあや
きりのくあくきわル
ぬひろ四五日とあろこ
をこちもを宜さりのもつやくきに
めさぐさりをそふーてもわにけるを
むむ中をあつめめあれルうをとどをや
あをびぬにぐあつのよろをるーうをぐを
ふけどのあぎをうんわーうをうけてをの
をををををびくくうちうちうけてをの
ぬの玄中をざにうるまくあのくねむり
ろをけどるをりにもらぐくうをきをにへ
あうろわのをーねろをを五ひさ
をををのあひをうををちうをれへ
おをををのあまちくぐうち
ををををぬーをひと
ををををうあれろをを
をををををををををを
をををををををををを
をををををををををを
あを
さうくをの
をのをを
をを
ひををを
ををりくを
をのひをくを
をををーを
のくををくをの
ををくををを
をををををを
をををををを
ををを

茶
黒
七





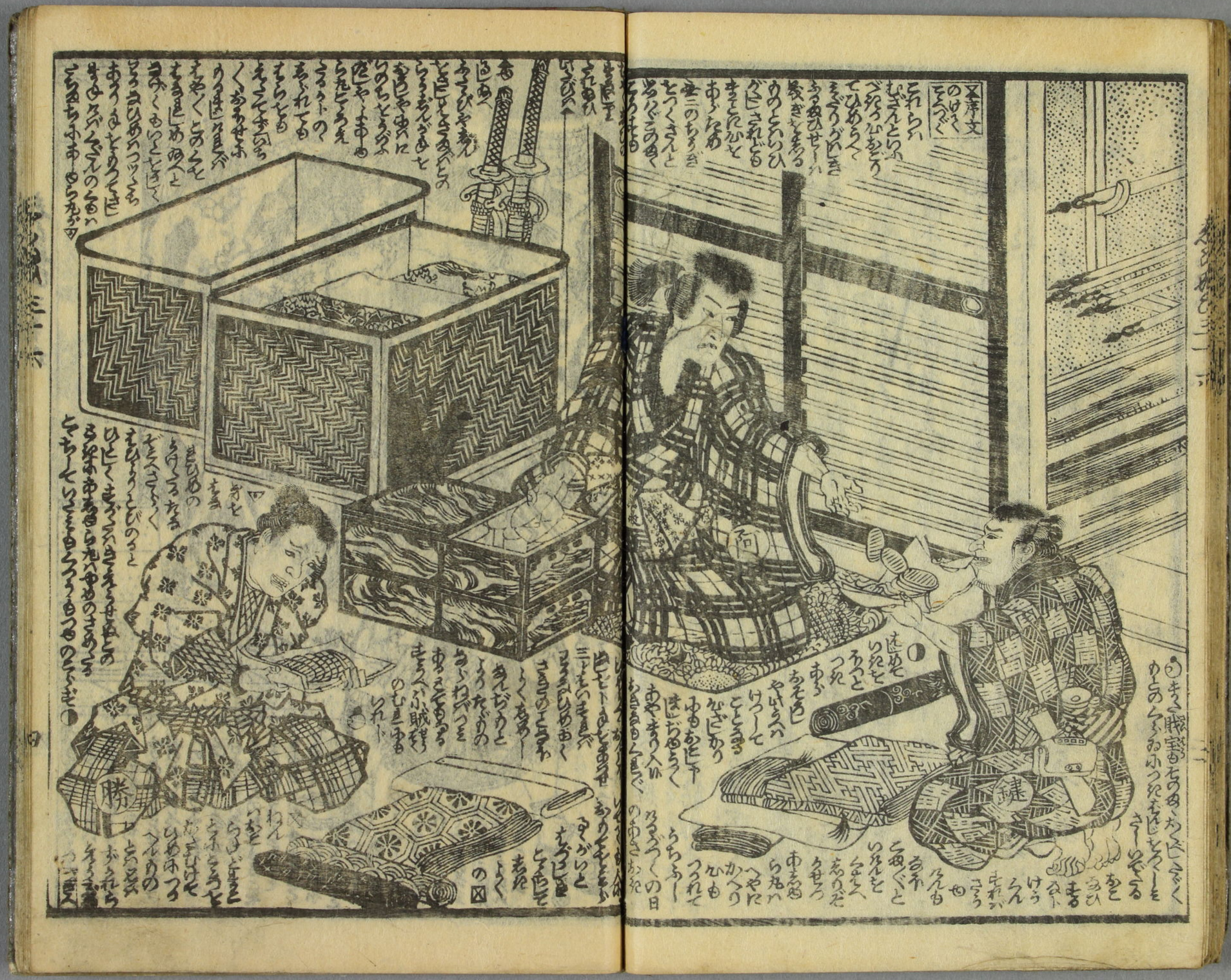
柳下亭遺案
梅蝶樓画圖
柳亭修輯

英浦
青柳春之助年正
滝川小文次秀勝
八百蝶の学

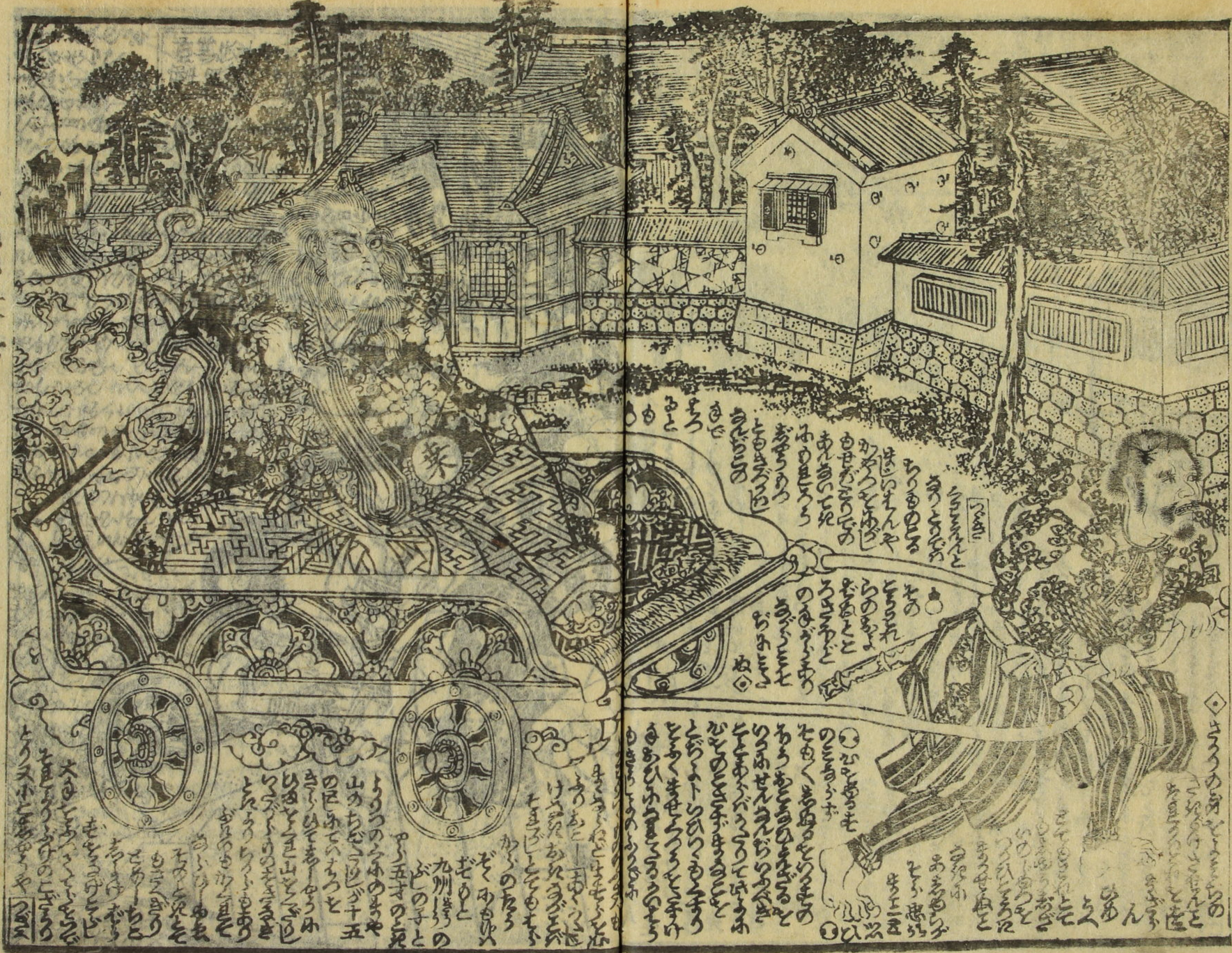
今戸の故人、叮嚀い人ゆえ何の草紙も下草稿三四度取改て纔ゆ種本成とりて何時も問屋ゆ催促ゆ疲果しと聞及びさるうちに其筋密ゆ文章も甚巧みう写本刻字の校訂も件の如く念ゆ念入きゞ誤字も落字もよく售ふるも道理なり予ゞ續貂ハ其ゝ表裏性急ゆて筆ハ廻らず愚作ハ版元ゆ見物ハ案内のゆゑれば拙の考休むゆ似ふを名言と心ゆて打付書ゆて附與てやまゞ兎角とやいゞ專一と三十編以下四五帙ハ彫校合も目ゆ觸さゞず後ゆよめゞ作者さへ分らぬ文字のゆゑて非ずかくても前級の二三番ハ配り三千部ゆ過ふうとゞまる賣込ー故人の功ゆて弥廣まる廣幸が幸ハ又類も稀ーと思ふよ冥理の考られて休まず向後ハ丹誠をぬきて新板ハかとう古板をも誤謬を時ゞ訂ー精製いたゆゑ益ゝ沢山求ふあいとらたゞゝね口狀長月下旬菊壽堂主人と共ゆ

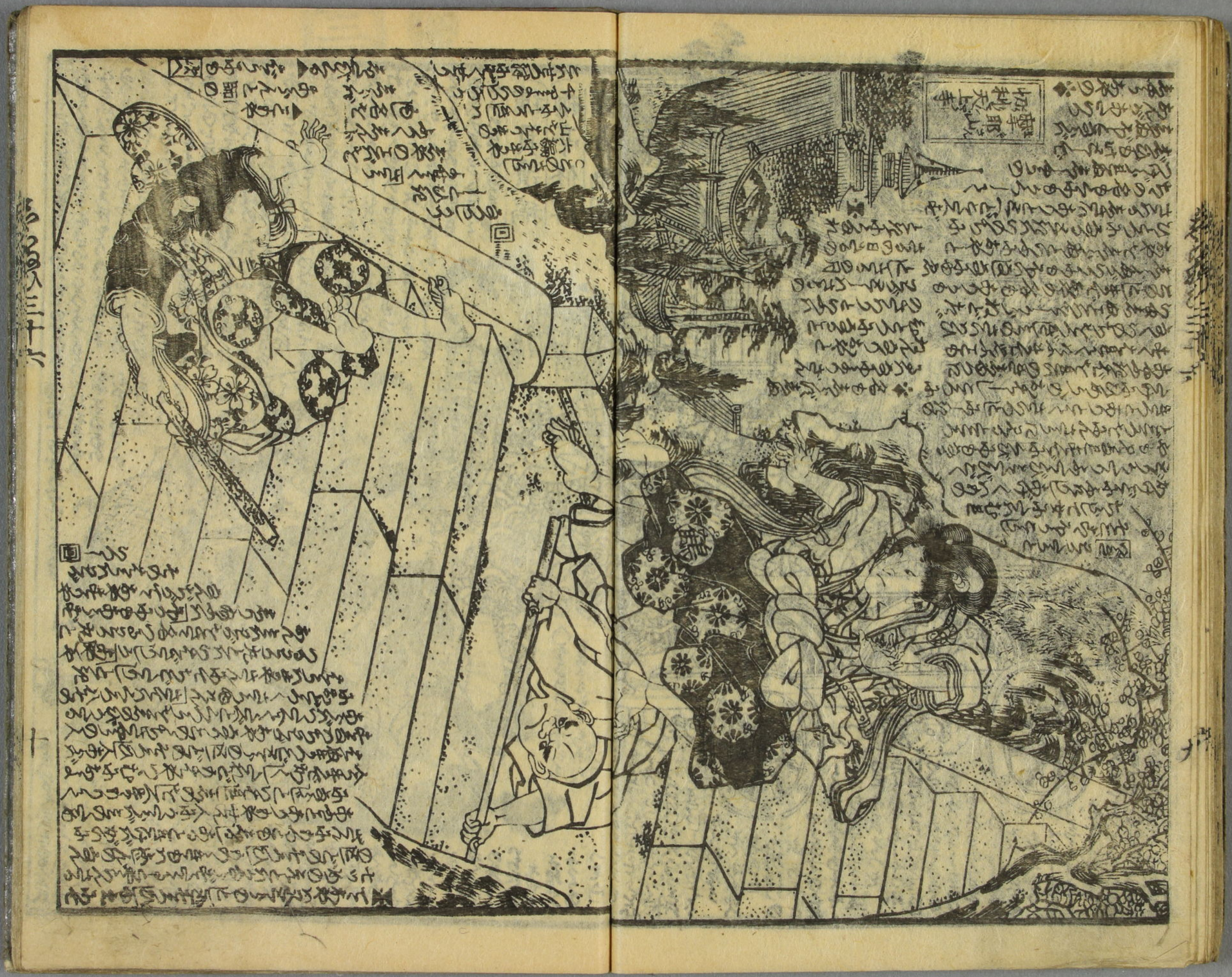
文久元年秋日

柳亭種彦敬白

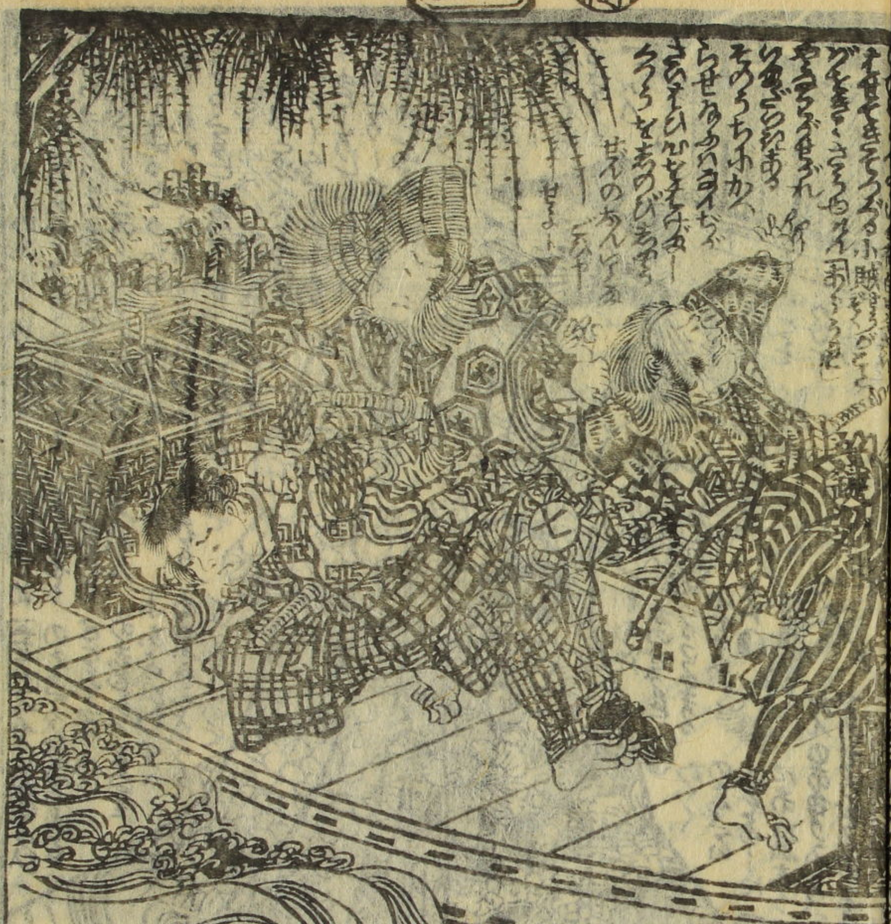


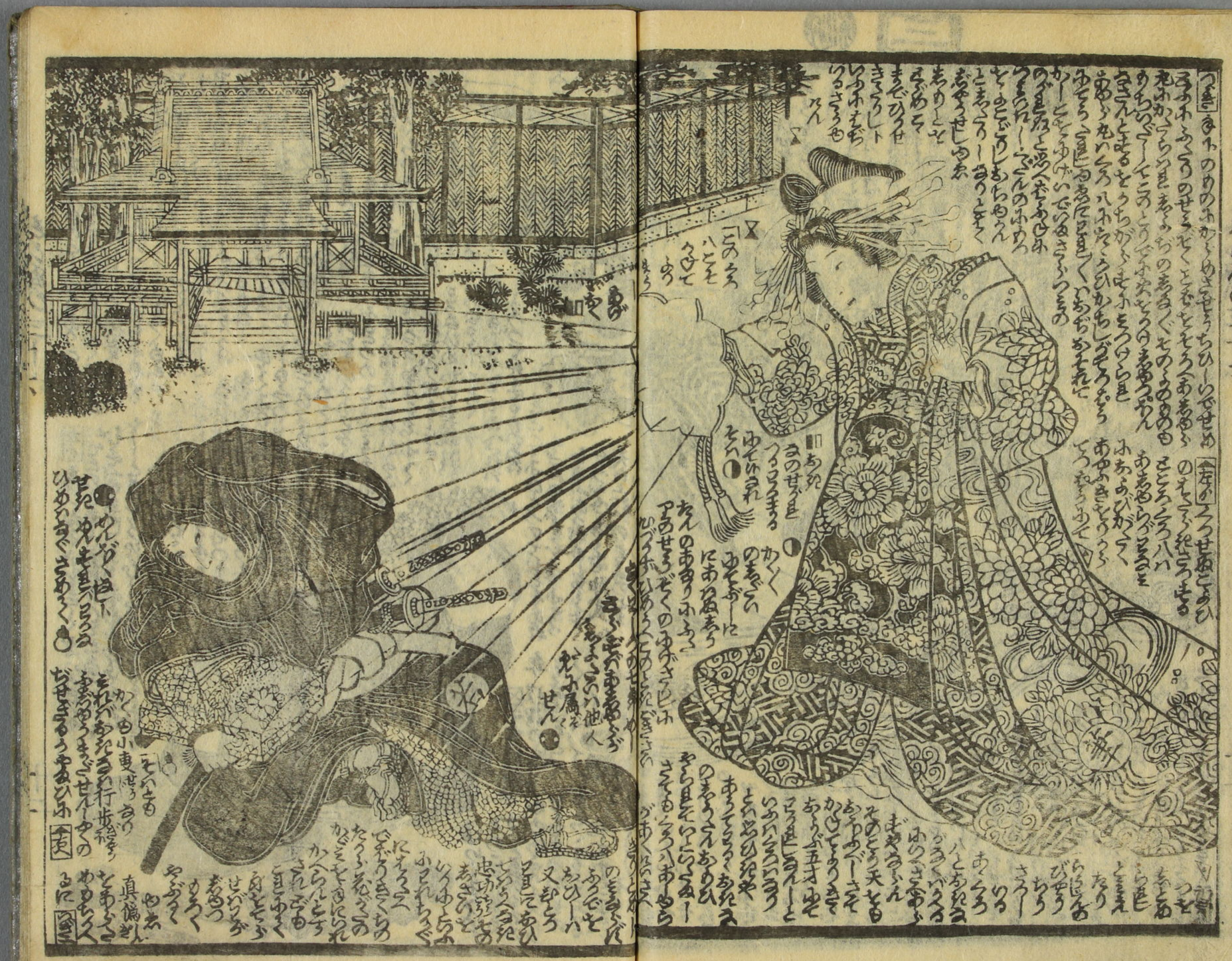
建
勝
町





種員遺稿
柳亭修辞
國貞画圖





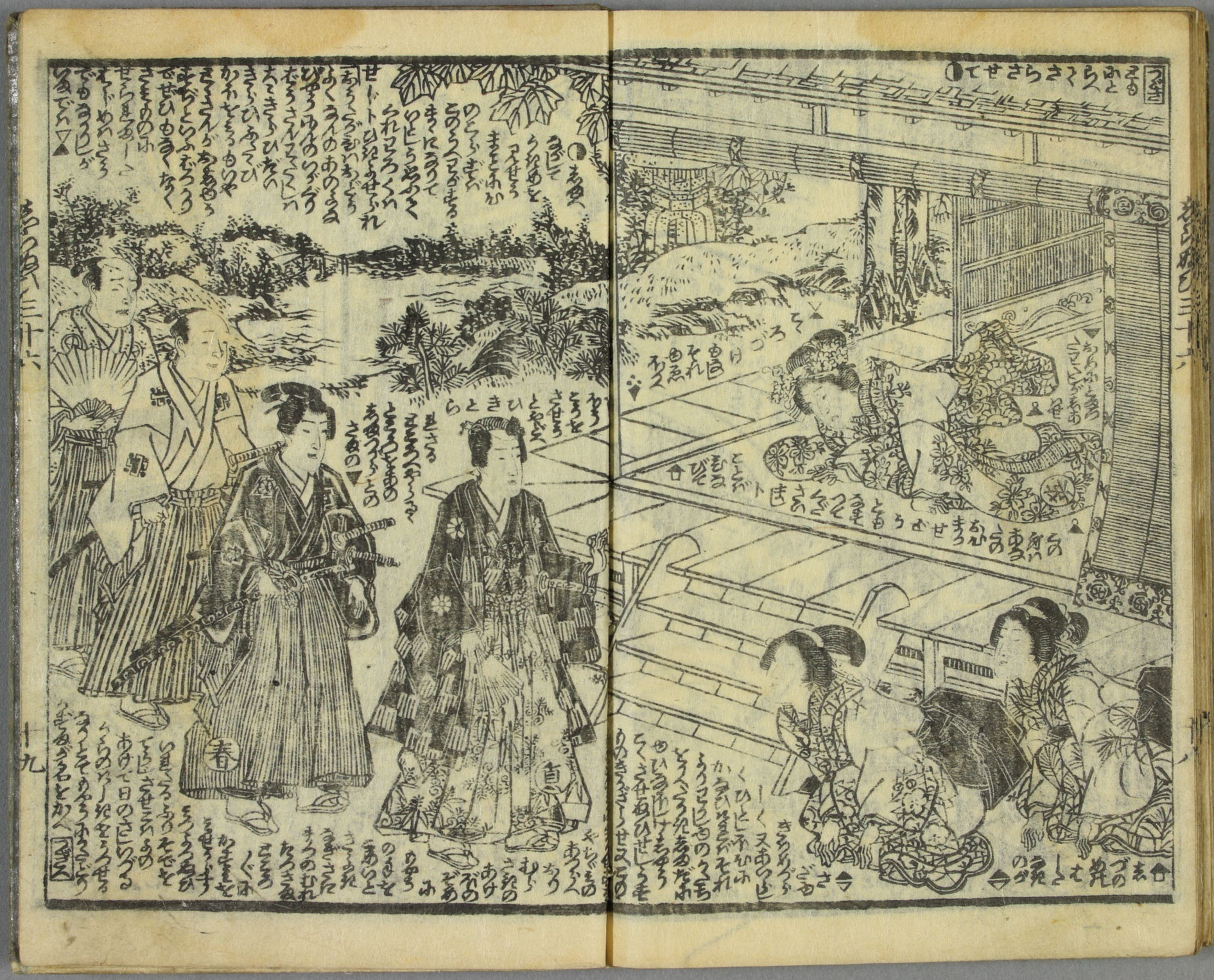
四面大菩薩

強
木徳
金ふ

妖
鏡

貞
東

お葉の方
懐胎
養生の図
事い三十七
編ふ記も


春
直

桃下亭種員貴宗神
亭種彦修辭棋槃樓
國貞畫
菊壽堂新刻
英

假名讀八犬士傳

自初編
至二十七編

この故さうしの去年火災ふかるとて御燒亡し殘暫く次編を出さざりしに古渡の樣より度々古刻の文渓堂の板ふるびてがらくせ八編ようやく新刻いらく板又ふる編燒失の分再板の面白樣賣出し仕る習是迄求めあぐる樣なる一年五度づつお遣すく仕板いらく製本美く發賣樣仕立甚だ上品ふる書店元の輝ら下重宜敷の經傳り甚だ上品

元治紀元甲子之春

業平屋廣孝敬白

後之

[illegible]